

平成31事業年度
事業計画

(平成31年1月1日から新元号元年12月31日まで)

1. はじめに

中央競馬の動向をみると、発売金が平成24年からは6年連続で前年を上回り、平成30年度についても堅調に推移しております。しかし、少子高齢化や人口減少の進展、社会環境の変化等に加え、海外経済の不確実性、相次ぐ自然災害の経済への影響等、中央競馬を取り巻く環境は依然として楽観視できない状況であると思われま

す。また、社会福祉の分野においては、少子高齢化の下、国民の社会福祉へのニーズは益々増大し、かつ、多様化しており、民間の福祉力の更なる向上が求められております。

そうした中で、当財団は、昭和44年の創立以来、50年の節目の年を迎えます。これまで当財団の事業にご支援・ご協力をいただいたすべての皆様に、心から感謝申し上げます。

当財団としましては、超低金利環境が長期化する中、公益財団法人として将来にわたり事業を安定的に進めていくため、コンプライアンスを遵守し、事業の公平性、透明性に引き続き十分配慮し、更なる社会福祉事業の発展のため、貢献できるよう努めて参ります。

2. 平成31事業年度の取組

(1) 社会福祉事業に対し施設整備等の助成を行う事業

民間社会福祉施設における環境の整備・充実に資するため、関連規程に則り、また事業へのニーズに柔軟に対応しうるよう引き続き適正かつ効果的な助成事業の実施に努めます。

(2) 社会福祉事業関係者の研修事業に対し助成を行う事業

今後の社会福祉事業における中核を担う人材の育成に資するため、民間社会福祉施設で働く職員を対象とした海外研修活動及び国内研修活動に対し、引き続き効果的な助成事業の実施に努めます。

(3) 中央競馬関係者の福利厚生の上向のための事業

関連規程に則り、事務手続を着実に実施し、引き続き福祉手当の適正な支給を行います。

(4) その他の業務

イ) 創立50年史を刊行します。

ロ) 基本財産等の運用益が低水準にあることを踏まえ、予算の効率的な執行に努めながら、管理業務を円滑に実施します。